



六桜花

やさしく かしく たくましく
～未来を創造的に生きる力の育成～

有田市立
初島小学校
(校長室だより)

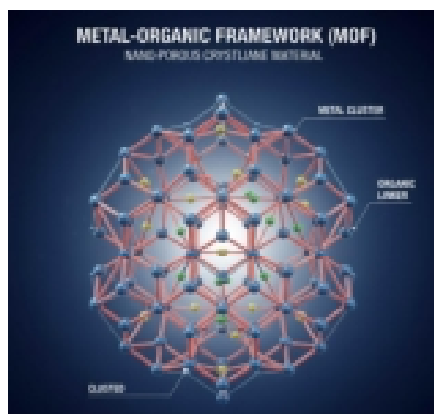
R7・10・14

No.49

「幸運は準備された心のみに宿る」

フランスの細菌学者ルイ・パスツールの言葉として広まっている。英語に訳した「Chance favors the prepared mind」という形で紹介されることが多い。

2025年のノーベル化学賞に京都大学高等研究院北川進特別教授(74)が選ばれた。北川さんは微細な穴に二酸化炭素(CO₂)などを自在に分離・貯蔵できる「金属有機構造体」(MOF)を開発した。



彼の好きな言葉が「幸運は準備された心のみに宿る」だそう。若い頃から研究に研究を重ね何度も何度も苦汁をなめた時期があった。それでも仲間と協力しながらあきらめなかった。彼の努力が報われたのは74歳。彼の言葉にたいへんな重みを感じる。

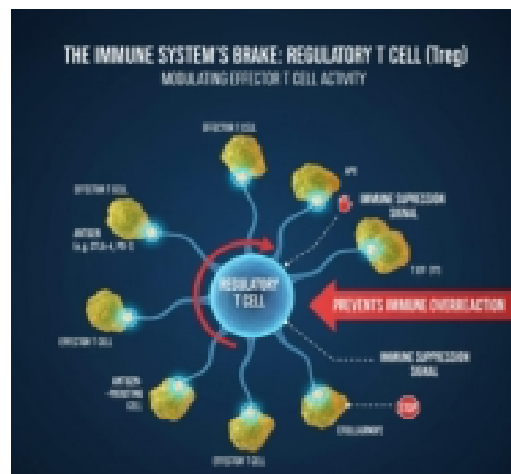
記者会見で、自身の経験を踏まえて、若い世代に「チャンスは祈るものではなく、自分でつくりあげるもの」とエールを送り、周りの人と協力しながら成し遂げる大切さを説いた。そして、米豪の研究者との共同受賞に「3人のチームワークで認められた。友達として非常にうれしく思う」「ケミストリー(化学)はチームプレーが重要。それがうまく機能した時に、大きな成果が生まれる」と話した。

児童のみんなに伝えたい

「幸運は準備された心のみに宿る」

2025年のノーベル生理学・医学賞に、大阪大学免疫学フロンティア研究センター坂口志文特任教授(74)が選ばれた。業績は「免疫が制御される仕組みの発見」。病原体を攻撃する免疫細胞の中に、免疫反応の暴走を止めるブレーキ役の「制御性T細胞」を発見した。この細胞の働きが弱まると、免疫細胞が体内の正常な組織を攻撃して自己免疫疾患などの病気になることも突き止めた。

彼もまた、不遇の時代を耐え抜き研究を続けた。彼の努力が報われたのも74歳。奥様も研究者で夫婦二人三脚で研究を続け不遇の時代を乗り越えてきたそうだ。



免疫の暴走を止めるブレーキ役——。彼らが見つけた制御性T細胞は、がんや関節リウマチなど幅広い病気に関わっている。30年以上前にその存在に気づいたが、当初は受け入れられなかった。不遇の時代でも信念を貫き、免疫学の新たな扉を開いた。

児童の皆さんに、このお二人の話をして
【夢・希望を持つことの大切さ】【夢の実現のために今の努力、そして、あきらめずその努力を続けることの大切さ】を伝えたい。

「チャンスは祈るものではなく
自分でつくりあげるもの」

*長文になり申し訳ございませんでした。